差別に関する道徳授業の実践

福田　直美・上原　秀一

宇都宮大学教育学部教育実践紀要　第6号　別刷

2019年8月9日

宇都宮大学教育学部教育実践紀要　第6号　2019年8月9日

差別に関する道徳授業の実践†

福田　直美*・上原　秀一**
日光市立轟小学校*
宇都宮大学教育学部**

平成30年度から小学校において「特別の教科　道徳」が全面実施された。『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編』「改訂の基本方針」には、「道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要と考えられる。」とある。本稿は、病気による差別を扱う道徳の授業実践と考察を行うものである。教材文に書かれている事実を大切にし、必要な知識を補うことで、どのような児童の思考が見取れるのかを明らかにしようとするものである。「道徳読み」という授業法、養護教諭とのTT体制、教材文の吟味について検証する。

キーワード：道徳の時間，「道徳読み」，公正，公平，社会正義，「母のせなか」

1.「道徳読み」について

「道徳読み」は、これまでにはない道徳授業のやり方で、読み物教材を使った新しい授業スタイルである。平成29年6月に大宮市で行われた勉強会で横山験也氏によって提案された。広山隆行『道徳読み教科書を使う道徳の新しい授業法』さくら社、2018（p.14,15）によると、「道徳読み」は次の5つのパートで構成されている。

1普通に読む

教科書の読み物教材を通読し全体の文意を把握する。国語の授業ではないので、難しい言葉の意味や読めそうにない漢字は調べさせずに教える。

2道徳さがし・道徳みつけ

「道徳読み」の最も重要な特色ある学習法である。自分で教材文から道徳を見つける学習をする。ここに道徳があるなと思ったところに線を引く。それがどんな道徳なのか言葉で書く。自分の中にあるぼんやりとしている道徳を明確にし、自覚的にする。

3発表をする（他の人の見つけた道徳を学ぶ）

全体・班・グループ・隣同士などどんな形でもよい。他の人の見つけた道徳を学ぶことで自分の道徳を豊かにする。

4「通知表」をつける（登場人物を俯瞰し、道徳的に判断する）

登場人物を選び、道徳の「通知表」を付ける（AかCか）。評価をするために論理的に考える。人によって判断が違うことを学ぶ。

5省みる（自分の心に落とす）

その善いところを見て、自分もそうなりたいと思う。その悪いところを見て、自分にもそういうところがありはしないかと思う。

これまでの道徳の授業では、ねらいとする一つの価値について考えることが多かった。しかし、「実際の社会は様々な価値の中で動いて」いる。価値基準は「人によって重要度が違う」し、「社会生活の場面ごとによって対応が変わ」る。「道徳読み」を繰り返していくことで、「ある社会的事象をどのように正しく把握し、とるべき望ましい行動は何なのか、自分の行動によってもたらされることにはどんなことがあるのかを考え判断する力が育つ」効果があると考えられる。また、教師も教材分析力がつく。同書におけるパート2とパート4の学習方法を授業

† Naomi FUKUDA*, Shuichi UEHARA**: Moral Education Classes on Discrimination
Keywords: Moral Education Classes
* Todoroku Elementary School,Nikko
** School of Education, Utsunomiya University
（連絡先：suehara@cc.utsunomiya-u.ac.jp上原秀一）

に取り入れて実践してみた。

2. 読み物教材について

本授業実践の教材は、「母のせなか」(『小学生のどうとく3』廣済堂あかつき、2018) を使用した。資料のあらすじは以下の通りである。今から150年程前、「重い病気」にかかってしまったため、うつるかもしれないと噂され誰も寄り付かなくなってしまった「りん」に対して、周囲の偏見は気にも留めず、思いやりをもって公正、公平に接する「栄一」の母「えい」のことが書かれている。また、母のように病気の「りん」を元気づけたいという気持ちと、病気がうつってしまうかもしれないと「りん」に近づくことができない気持ちとで揺れ動く「栄一」のことが書かれている。この「栄一」少年は、渋沢栄一である。しかし、今回は「栄一」が渋沢栄一であることを児童にはあえて伝えなかった。伝記読み物の場合、立派な行いをする偉人の話という先入観をもち、事実が見えなくなってしまうと考えた。教材文に書かれている事実を大切にして道徳を考えさせたかった。そのため、渋沢栄一に触れている部分を抜いた教材文を児童に与えた。

授業実践を行うにあたり、本教材による授業の主たるねらいを中学年内容項目〔公正、公平、社会正義〕の「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。」とすることにした。集団や社会において公正、公平にするとは、「私心にとらえわず誰にでも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるように努めること」である。そのためには、正しい知識や事実を理解しなければならない。そうでなければ、正しく判断することはできない。誤った理解や無知が差別や偏見を生むのだ。本教材では、「りん」がかかった病気は「重い病気」と書かれている。一体どんな病気なのだろうか。病気が分からなければ、正しく判断できないのではないか。それならば、病気についての正しい知識を補いながら道徳を考えることが効果的なのではないかと考えた。そこで、養護教諭にT2として授業に入ってもらうことにした。

3. 授業実践

平成30年2月1日に行った日光市立轟小学校3年生11名に対する授業である。

(1) 指導案概要

ねらい:「道徳読み」の活動を行い事実を知り、誰に対しても分け隔てなく接することは望ましい行動であると判断することができる。
展開の大要:
1.学習問題を知る。
2.教材文を「道徳読み」する。
(1) 見つけた部分に線を引き、どんな道徳があるか書き込む。
(2) 見つけた道徳をグループ内で確認する。
(3)「重い病気」についての正しい知識を教わる。
(4) もう一度教材文を読み、見えてきた事実を話し合う。
3.登場人物に「通知表」を付ける。

(2) 授業の記録

学習活動2 (3) における授業者 (T1)、養護教諭 (T2)、児童 (C) の記録を抜粋する。

T1:ここに「重い病気」って書いてあるけど、この重い病気って何だと思う?
C:がん。
C:心臓が悪い。
T1:がんってどんな病気か知ってる?
C:知らない。詳しくは知らない。
T2:がんとは、人から人にはうつらないけど、重い病気だよね。突然傷ついてしまう細胞がつくられることがあるのね。それが、いつもは治ってしまうけど、どういうわけかそれがどんどん増えていってしまうと、がんになってしまいます。そのがんになった細胞が、健康な細胞を壊してしまうから命に関わるような重い病気になってしまうこともあります。現在の医療でも傷つく原因はわかってないけどね。うつる病気ではないです。
C:うつらないけど、とにかく危険な病気?
T2:ううん。(否定する口調)
C:うつらないけどとにかく重い病気?
T2:あのね、それがね、早く見つかると治る病気でもあるんだよ。
T1:さっき出た心臓病とかどうですか?
T2:心臓病もいろいろあるけど、心臓の形がよくなかったりとか、心臓の働きが悪い病気とか

あるけど、これも心臓が悪くなる原因が人からうつされてなるものではない。心臓病も重い病気だけど、人からはうつりません。
T1：ここでは、重い病気で周りの人にはうつるんじゃないかと思われているような感じの病気ですね。
C：だれかがうわさしてる。
T1：誰かが？うつるかもしれないと？
C：嘘を言ってる。
T1：その当時はうつるかもしれないと思われていた病気で何かありますか。
T2：そうね。昔ね、みんなは知ってるかどうかわからないな。ハンセン病って聞いたことある？
C：伝染病？
T2：ハンセンっていう名前の研究者が見つけた病気なんだけどね。ハンセン病っていうのは、実は人から人へうつる病気ではあるんだけど、そのうつる力がとっても弱い病気なの。そして、ハンセン病用のお薬を飲み始めた時からその原因のばいきんが全部死んでしまうので、治療が始まれば人にはうつらないという病気なの。
　でも、今はインターネットもあるし、近くのお医者さんもたくさんいるし、病院もいっぱいあるから、これはどうなんですかねと言ってたくさん聞くこともできるし、調べることもできるので、正しい情報を、今お話した通り、うつるんだけど、うつる力はとても弱くてお薬を飲めばすぐにうつらなくなるっていう。そんなに怖い病気ではないと思わない？そういうことを正しくお話しできたけど、150年以上も前の昔だと、インターネットはないよね。お医者さんもね近くに何人もいるわけではないし、お薬もすぐ使えるわけではないので、治るっていう正しい知識を知ることができなかったかもしれないよね。だから、もしかしたら、これは治らない重い病気でうつるんじゃないかなって誤解されるような状態だったかもしれない。
T1：あとは聞いてみたいことある？
C：ノロウイルス。
T2：ノロウイルスは、うつります。人から人にもうつります。ノロウイルスにかかって吐いてしまうときがあるでしょ。吐いたものの中にノロウイルスがあって、それがまき散らされるとそれを吸い込んだ時にうつってしまって、自分もおなかをこわして吐いてしまったり下痢をしてしまったりする病気なんです。人から人にはうつります。ノロウイルスにかかると、それを殺す薬はないのでひたすら吐いちゃう人は吐き気止めをもらって楽になるように。お腹が下ってしまう人は下痢止めをもらったり。その症状に合わせたお薬でだんだん良くなるのを待ちます。ノロウイルスを殺す薬はないんだよ。インフルエンザはあるんだよ。インフルエンザウイルスを食い止めたり殺したりする薬はあるんだよ。
　なんか、治らないと思うから怖い病気なんだろうね。
T1：ここでは、重い病気で、周りの人にはうつると思われている病気なんだよね。だけど、お母さんは、「お医者様はうつらないとおっしゃっていましたよ。」と線を引いている人もいたね。お医者さんはちゃんと伝えればよかったんじゃないの？周りの人に正しく。
（うん、うん）
T2:そうね。お医者さん自体もまだ研究途中だったのかもしれないね。この薬を飲めば絶対治るというその薬も、もしかしてあんまりなかったのかもしれない。誰もが飲めるわけではなかったのかもしれないので、絶対大丈夫だよってお知らせしにくかったのかな。

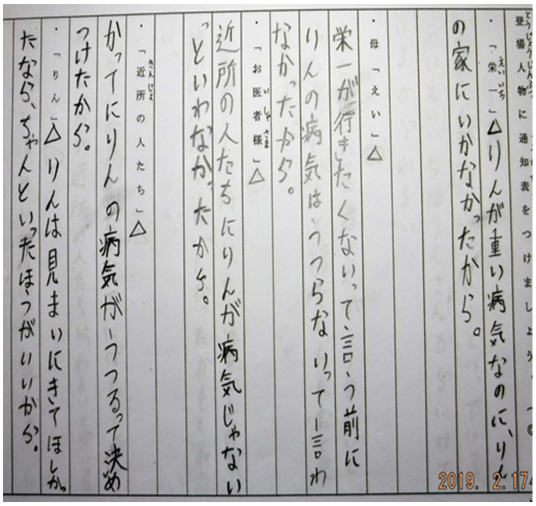
(3) 授業考察

　学習活動2 (1)「道徳読み」では、児童は教材文から道徳を探し、線を引いて書き込みをした。その間、話をせず黙って活動した。児童は自分のペースで教材文を読み、「道徳さがし」をすることができた。参観者からも、教材を通して自分と向き合う時間が十分に確保されていたという意見がよせられた。学習活動中、教師は、範読も発問もしないので時間に余裕が生まれた。そのぶん普段の授業よりも机間指導を十分に行い、児童の様子を見取ることができた。また、発問をしないことで、考えを誘導することなく、児童の思考をせばめないようにした。児童自らが教材文から道徳をみつける活動によって思考が刺激を受け、学習活動3「通知表」を付けるときには、自然と自分事として考えていたようにみえた。本実践での学級は少人数であったため、授業の中で丁寧な見取りをすることができた。大人数の学級でも同

じような効果が上げられるだろうか。また、「道徳読み」はねらいとする価値以外にも様々な価値を生む良さがあるが、広がりすぎてしまう場合も考えられる。児童の思考を妨げないように「道徳読み」をするためにはどんな指導言が必要なのか。今後の課題とする。

学習活動2（3）では、病気に関する正しい知識を補い、不用意な差別を避けるために養護教諭とTT体制で行った。これは効果的であった。今回は「重い病気」の中身について考えなければ、病気に対する差別や偏見に気づくことができない。知らなければ正しい判断ができないからである。児童から「がん」、「心臓病」、「ハンセン病」、「うつる病気」と様々な病気が出てきた。やはり、病気の専門的知識は養護教諭でなければ対応できなかったであろう。このように、事実を補うことによって、児童の思考にどのような変化があるのか。これを検証するためには、以上のように書かれていない事実を正しく与えた群と、与えなかった群で比較検討したかったが、今回は実践校が単学級のため検証できなかった。しかし、「通知表」の記述に事実を補ったことによる思考の変化が見られる児童がいた。（資料1）

この児童は、登場人物全員に△をつけた。特に母「えい」に対して、「栄一」が嫌がる前に「りん」の病気はうつらないと伝えるべきだと考えた。養護教諭の話を聞き、病気への偏見や差別について考えたためだと思われる。


登場人物に通知表をつけましょう。
・「栄一」△りんが重い病気なのに、りんの家にいかなかったから。
・母「えい」△
栄一が行きたくないって言う前にりんの病気はうつらないって言わなかったから。
・「お医者様」△
近所の人たちにりんが病気じゃないっといわなかったから。
・「近所の人たち」△
かってにりんの病気がうつるって決めつけたから。
・「りん」△りんは見まいにきてほしかったなら、ちゃんといったほうがいいから。
2019. 2. 17.

（資料1）児童の「通知表」

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編』では、「特に効果的と考えられる場合」は、「他の教職員とのTT」や「管理職や他の教員が自分の得意分野を生かした指導」の工夫があげられている。今後、どの道徳授業の場面で、これらの指導の工夫が取り入れられるのか引き続き研究していく。

教材研究をしてみると、ねらいとする〔公正、公平、社会正義〕に迫るために、この話が渋沢栄一の少年の頃でなければならない意味が見出せなかった。150年前の子供なら、誰でもよいのではないか。むしろ、その方が児童の思考に合っていると考えた。そのため、渋沢栄一であることを教えないで実践した。児童は、渋沢であると知らなくても病気に対する差別について考えることができた。仮に、本教材の少年が渋沢栄一であると伝えたとしよう。何か難しいことが起こっていたはずである。それは、渋沢栄一は立派な人物だから自分とは関係ないと他人事に感じることや、偉人の話だから書かれている登場人物の行動に間違いはないと鵜呑みにし、批判的に思考できないという問題である。児童の思考を深めるために必要な情報と必要のない情報をよく吟味しなければならない。

4. まとめと今後の課題

本授業実践では、「道徳読み」をすること、病気の知識を補うために養護教諭とTT体制をとること、教材を吟味し修正することを行った。繰り返し「道徳読み」をしていくことで、児童は書かれている事実を丁寧に読み、検証していく力がつくであろう。効果的に「道徳読み」を行うためには、教師の教材研究が重要となる。まずは、教師が教材文をよく読む。教材文から分かる事実、分からない事実をはっきりさせる。そして、分からない事実をどのように補うのか、そこにどんな道徳がみえるのかという視点で読むのである。今回の授業で初めて「道徳読み」を使って実践したので、今後、一層の改善を図って実践をしていきたい。

引用・参考文献

広山隆行（2018）『道徳読み　教科書を使う道徳の新しい授業法』、さくら社
文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』、廣済堂あかつき

平成31年3月29日受理

Moral Education Classes on Discrimination

Naomi FUKUDA, Shuichi UEHARA